

長野市公文書館便り

2016
SPRING



©NaganoCityArchives

●発行日：平成28年(2016)4月11日 ●発行：長野市公文書館



[パネル展]

2月2日～14日 善光寺下、東町の門前商家ちよっ蔵おいらい館「市民ギャラリー」で「戦後70年 15年戦争下の長野市民」と題して、パネル展を開催しました。長野空襲の跡や当時の市民生活を撮影した写真などを展示しました。開催期間中、大勢の市民に来場いただきました。



パネル展の様子



[移管・整理]

「豊野町役場文書」(3期分)959点の整理が終わりました。公開は4月中旬を予定しています。また、「鬼無里村役場文書」(3期分)や「戸隠村役場文書」(2期分)も公開に向けて整理中です。

[公開資料(1月～3月)]

- ・「綿内村役場文書1」 (799点)
- ・「綿内村役場文書2」 (580点)
- ・「大岡村役場文書」 (1,287点) ・図書 (394点)



「公儀・領主御触書写留」
1冊目(享和)～14冊目(安政)
(綿内村役場文書1)

※一般民衆に幕府や藩の法令など(御触書)を知らせるために書き留めたものです。

[視察・見学]

2月22日 公文書管理法が施行され、多くの自治体が公文書館機能を有する施設等の設置に向け取り組んでいますが、その中で、須坂市職員3人が当館へ視察に来館しました。当館の設立経過や利用状況、収蔵資料の内容など運営全般について説明した後、書庫や作業場などの館内施設を案内しました。

3月2日 小田切公民館の依頼により専門主事が「出前講座」を行いました。当館所蔵の「小田切村役場文書」や、昭和11年に開通し戦争資材としてレールが撤去され、昭和19年に廃止された「善白鉄道」について紹介し、参加者45人が聴講しました。



善白鉄道

出前講座の様子

[研修・会議]

2月10日～11日 県史料保存活用連絡協議会主催の「第3回史料保存活用講習会」が千曲市の県立歴史館を会場に開催されました。この講習会は、史料修復技術の研鑽を目的に開催され、当館からは職員3人が参加しました。

[TV放映]

2月20日 テレビ信州市政テレビ番組の「ふれ愛ながの市政ガイド」で、当公文書館について、専門主事が創設した目的や利用方法、貴重な所蔵資料などを紹介しました。

『市誌研究ながの』23号発行!!



今号は「真田家の歴史について」の講演会の収録や、「曹洞宗長野尼僧学林」、「戸隠神社宝光社の建築彫刻」、「浅川と用水の歴史」などの論文・研究レポートを掲載しています。ご希望の方は当館までお問合わせください。

- ◆判型：A4版 139頁
- ◆定価：1,500円(税込)

「さようなら長野市民会館」 — 市民のホール 惜しまれつつ —

平成28年(2016)5月、新しい長野市芸術館がスタートします。これまでの長野市民会館は取り壊され、同じ場所に改築された第1庁舎に併設されました。これまで長野市民のホールとして親しまれてきた長野市民会館は、昭和36年(1961)に開館してから半世紀が過ぎ、老朽化に加え、市民が文化的施設に求める要望も大きく変わり、建てかえの気運も高まっていました。

今号では、芸術館へのパトタッチを前にして、長野市公文書館に残る資料にそって、改めて長野市民会館建設当初からの歩みを紹介し、ここにその足跡を残しておきたいと思います。

— 市民会館建設の動き —

昭和30年代前半まで、長野市に大ホールはなく、規模の小さな催し物は公民館で行われ、規模の大きな大会・発表会・研究大会・ショーなどは、後町・南部・城山各小中学校の体育館が市民会館に指定されて使用されていました。しかし、体育館は教育活動があり、構造上からも不便な点が少なくありませんでした。「市民会館建設要望書」には、「一日千秋の思いで待望」しているとあり、中小企業経営者を中心に建設促進の陳情書も出されました。

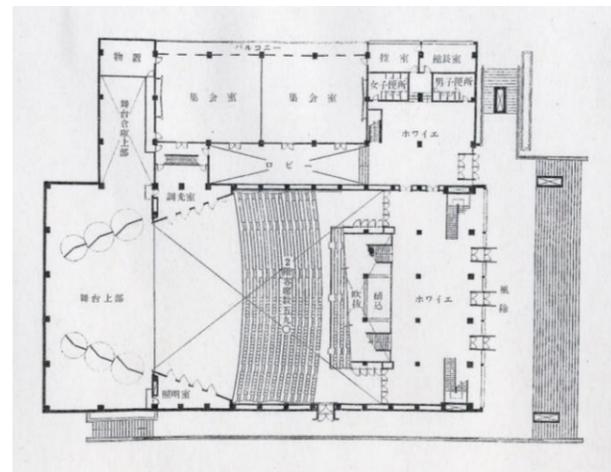


図1 長野市民会館2階平面図
「長野市民会館建設目論見書」より

昭和33年6月18日、市議会で市民会館建設が議決されました。市民会館建設は、市制60周年記念事業とし、また、御開帳に向けて昭和36年4月までの竣工が望まれていました。建設場所は大字鶴賀字苗間平1613番地(緑町)、敷地面積は3,890.27坪(約12,838㎡)で、それまでは農地でした。

直ちに、市長を会長として建設委員会が作られ、建設は着々と進められました。当初の計画では、事業費2億3000万円、主体工事費は1億5000万円とされていました。

資金計画では、①財政難のため5000万円(主体工事費の3分の1)を寄付金として市民に求めていること、②全国で活用されるようになってきた、厚生年金保険積立金の還元融資の充当を考えていたことが特徴的といえます。寄付金は、昭和35年4月から昭和38年12月までに計4260万3552円が寄せられました。中央で活躍している長野市出身者や市内事業者をはじめ、各地区区長さんや多くの市民のみなさんの市民会館建設への熱い思いの結晶でした。落成記念の市民招待会はこのお礼として実施されました。

— 市民会館の概要と竣工 —

市民会館の概要は図1、表1のとおりです。施工は熊谷組となりました。設計は、早稲田大学の^{そしろうた}十代田三郎教授(長野市出身)から指導監修を受けて佐藤武夫氏が行いました。収容人員は2,250人(固定席1,750、補助席500)で、当時県下一のホールでした。鉄筋コンクリート地上3階(一部4階・一部地階)造りで、いわゆるコンクリート打ちっ

表1 長野市民会館の概要(完成時)

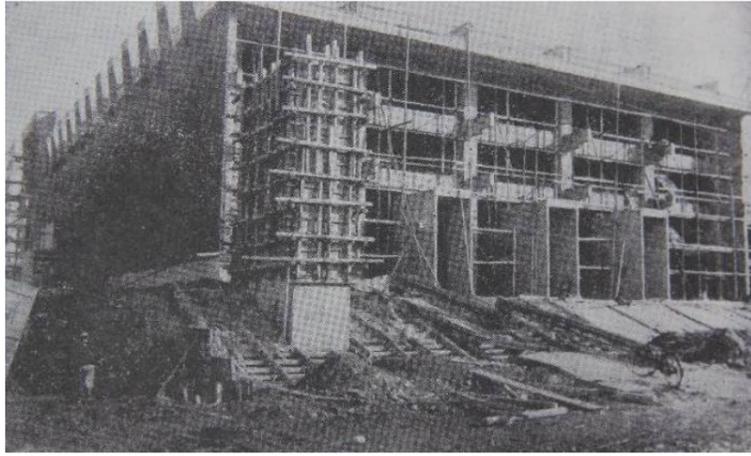
鉄筋コンクリート造:	地上3階一部4階
総面積:	1,556.62坪(5,145.8㎡)
客席:	固定席1,750席 補助席500席
舞台:	間口20m 奥行14.4m オーケストラピッチ付
施設:	ホワイエ ロビー 集会室2 放送中継室 映写室 楽屋 照明室など
総工費:	1億8000万円

長野市公文書館

所在地 長野市箱清水一丁目3-8 長野市城山分室内(〒380-0801)
 電話 026-232-8050 F A X 026-232-8051
 H P http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/
 又は **長野市公文書館** で検索
 E-mail shomu-9@city.nagano.lg.jp
 開館時間 午前9時～午後5時(閲覧申込みは午後4時30分まで)
 休館日 土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日
 年末年始(12月29日～1月3日)

こんなときにはご相談ください。

- ・古い土蔵などを取り壊すので、所蔵資料を寄贈・寄託したい。
- ・所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。



足場が取り外され姿を現した市民会館（昭和36年2月）
『広報ながの』第305号より

放しの塗装なし、赤煉瓦の外壁、ホールの巨大空間を支えるため厚さ2mの折板屋根構造となっていました。音響効果のため1スロープの客席で音響板を使うと、マイクなしで肉声を通り、オーケストラピットも備えるなど、音楽ホールとしての機能を大事にした、音響工学的にも優れた建築でした。

工事は昭和35年4月16日に起工し、御開帳、長野産業文化博覧会に間に合わせるために昼夜の工事もありましたが順調に進み、翌36年4月8日竣工式を行っています。

一市民に親しまれた市民会館一

昭和36年4月8日、長野市民会館が開館しました。8日は9時30分からの竣工式、10時からの開館式の後、落成記念市民招待会が午後2時と4時の2回、9・10・11日は10時・12時・2時・4時の4回ずつ催されました。市内の芸能文化団体が出演し、招待された多くの市民は最新の大きなホールの完成を祝い、鑑賞することのすばらしさを味わうことができました。

開館してからの使用簿を見ると、県連合婦人会総会、宝くじ抽選会、歌謡ショー、戦没者遺族会、テレビ番組の収録（NHK「私の秘密」他）、上下水道研究発表会など、市域だけでなく全県規模、全国規模の様々な催しが毎日のように続いています。県民文化会館やオリンピックの各施設ができるまで、大きな役割を果たしてきました。市内小中学校の合同音楽会や成人式なども行われ、たくさんの市民が親しんできました。多くの市民に惜しまれながらのバトンタッチです。

なお、昭和34年7月3日、市民会館に併せて長野市庁舎も隣接して移転建設することが決議されました（旧第1庁舎）。この市庁舎の設計も佐藤氏で、建設着工は昭和39年4月、翌40年10月18日に竣工しています。



長野市民会館全景 長野市公文書館所蔵



第8回国連運動全国大会（昭和46年10月11～12日）
長野市公文書館所蔵



第九ふれあいコンサート'89（平成元年度）
長野市公文書館所蔵



ごみ減量・再資源化推進市民大会（平成6年度）
長野市公文書館所蔵